

フライブルク短期留学について

(株) 愛媛FC

アカデミー強化育成部ディレクター

青野 大介

目的

- 愛媛FCアカデミーからポテンシャルの高い選手を選抜し、国際経験を積む機会とその後の取り組みに対して刺激を与える機会とすること
- 愛媛FCアカデミーコーチを派遣することで世界との差異を把握し、選手育成のシステム（環境・指導）に還元すること
- 松山市とフライブルク市における姉妹都市交流の活性化を図ること

参加者

- 青野大介（アカデミー強化育成部ディレクター兼U-18監督）
- 小木曾春樹（U-18）

期間

- 2015年8月4日（火）から13日（木） 移動日含む

費用負担

- 愛媛FC育成サポートクラブ 愛夢

活動報告

2015年8月4日火曜日

出国

航空機で大阪-ヘルシンキ（9時間）、ヘルシンキ-フランクフルト（2時間半）、乗用車でフランクフルト-フライブルク（2時間）を移動。

移動振り返り

- 疲労や時差ボケ、手続き・機内の対応などのコミュニケーションを経験。

⇒時差ボケしない為にはいつ睡眠をとればいいのか？

機内の温度はどうだったか？何を用意していれば良いか？

2015年8月5日水曜日

SCフライブルク U-19 TR参加

10:00-11:30（40min+40min）

2グループに分け、筋力TRとピッチ内TRを実施（春樹はピッチ内TRに2回参加）。

筋力TRのメニューは個人個人違う（フィジカルコーチがいないと筋力TRは実施してはいけない）。

- 5x2 ボールポゼッション（9m×9m）
- 5x2 ボールポゼッション（9m×9m×4）移動あり
- パス&コントロール

13:30-15:40

- ボールフィーリング（ドリブル）
- 6x3 ボールポゼッション（13m×14m×2）
- サーキット



16:00-17:00

- クールダウン（フットバス・水風呂）

TR振り返り

- 2日間の休み明けでフィジカルコンディションの回復の中にテクニックとポゼッションのTRを織り交ぜていた。
- 自クラブで日頃やり慣れたTRだったのでスムーズにTRに入れた。
- パス&コントロールの距離が我々よりも長く設定しているように感じた。
- TR前・中・後の中でコミュニケーション能力が足りないと感じた。
⇒語学力・積極性・責任感・経験が足りないのでは？
- TR中に飲んでいて水が体に合っていない為か下痢を訴える。
ドイツは硬水で日本は軟水。

SCフライブルク TOP 公開TR視察（19:00-20:30）

- シュトライヒ監督はフライブルク出身で長年育成に関わっていた人物。
- スタジアム横のグラウンドでTR。



2015年8月6日木曜日

SCフライブルク U-19 TR参加

9:30-11:00

- 2人組パス&コントロール
- 4x4+4 ボールポゼッション (14m×21m)
- シュート



13:30-14:30

トレセンに参加していたメンバーが合流。

全体を2つに分け、各チームでウォーミングアップ。

- 5x5+GK

負けたチームが土曜日の朝食を作ることを約束。

15:00-16:00

- クールダウン (フットバス・水風呂)

SCフライブルク U-23 TR視察

TR振り返り

- 昨日よりは積極的にコミュニケーションを取っていた。休憩時間にも一緒にバスケットボールをしたり、英語で話をしたりしていた。
- 午後、初めて同数のTRを行い、攻守ともにフィジカル差を体感する。
- はじめのうちはパスをもらえなかった。
- 5x5+GKのTRはかなり狭いグリッドで行われた。
- 昨日、今日でドイツ人はまじめで素直だと感じた。プロになる意識が強いのを加味してもそう感じた。近年、日本人がドイツで活躍できるのは国民性が日本人と似ていることが要因の一つだと思う。

- 毎回TR前のコーチの話す時間を十分にとる。
⇒TRの目的・メニュー・成果を納得・理解させた上でTRを行う。ライセンス取得の講習会でこのように指導されるらしい。
- コーチは止めるまでプレイすることを求めている。そもそも激しいプレイがあってもその後も何もなかったかのようにプレイしている。この日常がタフなプレイを可能にしていると感じた。
- U-23、U-19ともに必ずテクニクのTRが30分くらいはある。選手は黙々と高い意識で取り組んでいた。

育成施設長（アンドレア氏）との対談

育成の目的

より多くの選手をTOPチームに送り込み、TOPチームで活躍することが最大の目的。

⇒ドイツで優勝したこともあるが、タイトルは重要視していない。

大きなクラブに移籍することも素晴らしいことだが、最大の目的は変わらない。

カテゴリー

U-12/13・U-14/15・U-16/17・U-18/19・U-23（2nd）

チームスタイル

TOP～U-12まで基本的な考えは統一している。

- 攻撃

DFラインからゲームを組み立てる。

プレッシャーの中（狭いスペースの中）でプレイできる。

- 守備

状況（相手の力など）によって変えることもあるが、前線からの守備・切り替えの早さ（奪われた瞬間から奪い返す）は基本的に統一。

育成施設

2001年完成（どこが一番育成に適した地域であるかを考えて場所を選択した）。

ドイツで初めての規模の育成施設で現在2部以上のクラブでは育成施設の最低基準として義務付けられている。

年間の運用費は4億円以上。85%はTOPチームから15%はサッカー協会・教育委員会・UEFA（チャンピオンズリーグに出場できない育成に力を入れているクラブへ4000千万円）から。



クラブハウス（2階）

- 朝食部屋
- ランドリールーム
- 勉強・相談部屋

教職免許を持つスタッフと社会福祉学を学んだスタッフがいて自由に入出りできる。

- 事務室

バスのオーガナイズや選手証の手続きなど事務員（2名）が作業をする部屋

- マルチルーム

試合観戦、選手のミーティング、育成コーチのミーティング、TOPと育成コーチのミーティングなど様々な用途で使う部屋。



- 寮

部屋数 16部屋（シーズン中は14部屋を使用し、2部屋はテスト生用）

テスト生に力があれば来シーズンに向けて入寮させる。

⇒寮の生活に慣れてもらうこと。

寮で生活することがどういう意味かを理解させること。



たくさんのを犠牲にしなければならない=サッカーに没頭する。

寮費 クラブ負担（お小遣いも支給）

入寮基準 15歳から19歳まで

家が遠い

競技レベルが平均以上の者

※ホストファミリー

受入数 11家族

生活費 クラブ負担（約450ユーロ）

受入基準 寮と同様



クラブハウス（1階）

- コーチ室

すべての監督・コーチがコミュニケーションを取れるように1つの大きな部屋になっている（現TOPチーム監督シュトライヒ氏のアイデア）。

- U-23コーチ室

U-23（2nd）はプロに近いポジションとして扱われる為、別に設けられている。

- フィットネスルーム

- トレーナールーム

- レストラン

選手はもちろん、一般の方も食事可能。

クラブハウス（0階）

- コーチロッカールーム

- 各カテゴリーロッカールーム

- サウナルーム

- リラックスバス

- 測定ルーム

- ランドリールーム



クラブハウス（地下1階）

- 室内練習場



スタジアム

- 5400人収容
- クラブハウスに隣接
- U-17～23チームと女子TOPチームの公式戦で使用



練習場

- 天然芝2面、人工芝1面（天然芝1面と人工芝1面は正規の大きさでない。）



成果

- 過去5年、TOPチームには10名以上の育成出身選手が属する。

2015年8月7日金曜日

SCフライブルク スタジアム視察



- 24000人収容
- すべての座席に屋根あり
- 屋根の上にソーラーパネル（環境政策）
- スタジアム内にクラブハウス、オフィス、ファンショップがある。
- フランクフルトの売り上げの一部を育成組織に使用の看板

SCフライブルク U-23 vs U-19 TM視察

- お互い4-3-3のシステム
- 攻撃
後ろからしっかり組み立てる。
- 守備
U-23 中盤でブロックを作ってから入ってきたら厳しく
U-19 チャンスがあれば前線からプレッシング
スタート位置は違ったがお互い積極的に守備
- すべてのTOPスタッフ、他クラブのスカウトが視察

FCエメンディングゲン TOP (ドイツ7部) TR参加

19:20-20:40

- 6x2 ボールポゼッション ボール2個
- 4x4 ハンドボールゲーム
- シュート
- 8x8+GK (幅30m×縦32m)

TR振り返り

- 2日間の経験を生かし、コミュニケーション（初対面の挨拶・TR前のウォーミングアップ・TR後の挨拶など）がうまく取れるようになった。
- 2日間とは異なった環境でのサッカー（レベル・グラウンド状況など）を経験。
- U-19のTRも視察して感じたのはドイツ人がどうかではなく、SCフライブルクの選手たちの意識が高いということがわかった。
- どのクラブもスタジアムと練習場1面を所持することは義務づけられている。



フライブルク観光



フライブルク大聖堂



石畳の道



大聖堂広場の朝市

2015年8月8日土曜日

SCフライブルク U-19 TR参加

9:30-10:30

- ジョギング

TR振り返り

- 短い時間ではあったが積極的にコミュニケーションを取り馴染んでいた。

2015年8月9日 日曜日

SCフライブルク 女子施設視察

スタジアム TOP以外の公式戦、TRで使用。

練習場 天然芝・クレー

カテゴリー TOP・U-21・U-17・U-15



ドイツ杯1回戦 Bahlinger SC (4部) vs Sandhausen (2部) 観戦視察

- 日本の天皇杯に値する大会
- Bahlinger SCのスタジアムで開催 (約4000人が観戦)
- 街の人口が約4000人



試合振り返り

- 現在ドイツではポゼッションサッカーが主流。
- 前線からの守備とコンビネーション (ボールサイドで数的優位を作る) で多くのチャンスを作った Bahlinger SC (4部) が主導権を握ったが (相手に退場者が出たこともあるが)、PK戦の末、Sandhausen (2部) の勝利。
- 芝の深いピッチで互いにハードワークをしていたが足をつる選手は一人もいなかった。また、自分よりも後ろにボールが出た時の戻すスピード、真面目さは際立っていた。

2015年8月10日月曜日

SCフライブルク U-19 TR 参加

9:30-11:20

- コーディネーション
- フィジカル測定
- パス&コントロール/シャドーシュート

13:30-14:00

- ミーティング

14:00-15:40

- 1×1
- 1×1→2×2→3×3→4×4+GK 時間ごとに増える

15:50-16:30

- クールダウン (フットバス)



SCフライブルク U-13/U-15/U-17/U-23 TR視察

TR振り返り

- やはりテクニクにかける時間が長い。その分、コーチの声かけ（質への要求）は絶やさない。
- どのTRも運動量が少なく感じる。
- 勝利への執着心がボールへの執着心、粘り強さを生んでいる。
- U-13からメディシンボールなどを使ってコーディネーションTRを行っていた。

2015年8月11日火曜日

SCフライブルク U-23 女子フィジカルコーチTR

10:30-11:30

コーディネーションTR

TR振り返り

- 専門的なTRを受け、改めてフィジカルコーチの大切さを感じた。



フライブルク市役所 国際交流科 環境・スポーツ交流担当スザーネさんとの昼食

- エネルギー政策について

日照時間の長いフライブルク市はまちの至るところにソーラーパネルを見ることができ、世界のソーラー首都として知られる。

きっかけは1970年代に原子力発電所の建設が計画され、フライブルク市民が大きな反対運動を展開し、計画を撤回させたこと。そして、チェルノブイリ原発事故が起きた1986年、フライブルク市議会が脱原発を決議し、省エネと再生可能エネルギーを推進する道を選択したことである。

市民が行政を動かしソーラーのまちづくりが本格的に始まった。

市民の出資でSCフライブルクのスタジアムにソーラーパネルを設置した。

- 公共交通機関を中心とした都市デザイン

フライブルク市は旧市街地への自動車進入を抑制。公共交通機関を中心に自転車、徒歩を利用する政策を取った。



政治的な改革が起こっていない為、同じ考えを持った議員さんが集まり長年、継続的に同じ政策がとられている。

- 今後の交流について

時期が合えばSCフライブルクが参加する大会などに参加させてもらうことは可能である。しかし、育成チーム同士での交流は経済的に難しい。

市が関わっていなくても（クラブ同士でも）姉妹都市交流には変わらないのでどんどん交流すべきである。そういった活動を市がHPなどで取り上げることによって市民の感心を引き、支援してくれる人や団体が現れる可能性がある。ドイツには財団、州、サッカー協会、独日協会などお金の出所はたくさんあるので、そういったものを使って支援金を集めてもらうことは可能かも知れない。例えば、フライブルクの温泉と道後温泉を提携させて、お互いの温泉がスポンサーになってクラブ交流を行うというのはいい考えではないだろうか（サッカーも温泉も健康につながるし、市民を元気にするため）。

まずは、1人2人の交流から始めて最終的にチームでの交流が出来ればいいのではないだろうか。

今回の我々の交流の他に松山東高生徒との環境に関する交流は今後定期的に行う予定である。逆にフライブルクから松山への交流は定期的なものはない。

振り返り

- 市民の環境に対する意識が非常に高い。
- 環境とスポーツがリンクしている。

自転車（買い物かご）・スポーツ施設・レストラン・きれいな空気・森・道幅 etc

- 交流を継続するために今回の交流を市民に知ってもらうこと、そして長期的な計画を立てる必要がある。



市歴史博物館 見学

2015年8月12日水曜日-13日木曜日

帰国

列車でフライブルク-フランクフルト（2時間）、航空機でフランクフルト-ヘルシンキ（2時間半）、ヘルシンキ-大阪（9時間）を移動。

今回の経験を踏まえた今後の取り組み

- クラブにおける育成の立ち位置、考え方の構築
- 育成における様々な要素（使命・ヴィジョン・哲学・指導方針・コーチ役割など）の構築と見直し
- ハード面の強化（クラブハウス・グラウンド・寮など）
- フライブルク短期留学の継続と強化
- チームでの海外遠征
- 育成費の確保

愛媛FC育成サポートクラブ 愛夢の活動強化

育成費を集める方法の提案

例) TOPホームゲームのチケットやその他の売り上げの一部を育成にあてる。

- 広報活動